

< 冬の楽しみ >

桑原紀子

寒い毎日ですが、時間があれば近所の公園の調整池に出かけています。

公団の開発で作られた調整池ですが、湿地性の木々やヨシ原が茂ってきて、鳥たちの数も多くなっています。

1月1日には、カワセミが水に飛び込んで小魚を獲るのに出会いました。キラリ翡翠色が視野をよぎって水中に消えたと思うと、もう飛び上がり柵に止まっているのです。カワセミは餌とりに夢中で、近くで息を殺している私など眼中にないようでした。このところどこかに引っ越したのか、沢山残っていた白い糞の痕跡もなくなり、カワセミねらいのアマチュアカメラマン達もいなくなりました。

今の楽しみは、冬鳥として遠くシベリア方面からやって来たカモたちです。

カモたちは繁殖期の今、雄の羽は彩りも鮮やかに、模様も手が込んでいて、カモの雌でなくてももうっとりとみとれてしまいます。雌は地味な羽色のままですが、くちばしや脚の色など同種の雄とお揃いの所を探すのも楽しいです。

朝10時頃、双眼鏡片手に行ってみると、60羽ほどのカモたちがのんびり泳いでいます。種類ごとに小さな群れになっていますが、混ざっているのもいます。カルガモ、オナガガモなどはずいぶん人馴れしていて、パン屑を投げる人の近くに群がっています。水面

にうかんだ餌をくちばしで掬い取ったり、体半分水中で逆立ちして取ったりしています。

人間からパンなどもらわず、離れた水面にいる群



れは緑白茶色の派手な色合いのハシビロガモ、くちばしの幅が広いのが特徴です。雌雄共に黒っぽいシックな群れは、オカヨシガモです。群れの中に一羽見かけないきれいなカモがいました。コガモに似ているけどなんだか違う。図鑑を見たらヨシガモの雄で、特徴はナポレオンの帽子のような形の頭とありました。たった一羽どこから飛んできたのか、翌日はもういませんでした。キンクロハジロというちょんまげをつけたようなカモも一日だけみたことがあります。

池にはカモたちに比べて体の大きなアヒルや合

鴨もいます。合鴨は野生のマガモそっくりで、この池でたったひとつがいのマガモの雌が合鴨と寄り添い、小柄なマガモの雄がガアガア鳴きながらその後を追いかけています。

のどかなカモたちの世界もなかなか大変です。池にはカイツブリ、パン、アオサギ、ゴイサギ、コサギ、カワウなどもいてにぎやかです。

カモたちは秋から冬をこの池で過ごし、3月になると故郷の北国を目指してまた長い渡りの旅に出るのです。